

日本への対内直接投資、名目GDP比、世界198か国中195位の原因の一つは英語力！！

ー日本全体での英語力向上が、日本経済発展のカギー

開倫塾

塾長 林明夫

Q：日本への対内直接投資とは何ですか。

A：(1)「対内直接投資」とは、海外から日本への、企業もしくは資本を誘致する政策です。

(2)熊本県菊陽町に生産拠点を構築している TSMC など、旺盛な対内直接投資が行われている一部地域では、雇用・賃金環境のひっ迫が現実化するほど、経済を活性化します。

Q：日本への対内直接投資は、他の国と比べ、余り多くないのですか。

A：(1)長年、日本の対内直接投資残高は、世界的に見ると、異様に低いようです。

(2)具体的には、2023 年末時点での日本の対内直接投資残高は、約 51 兆円です。これは、日本から外国への「対外直接投資残高」約 308 兆円の 6 分の 1 と、比較になりません。

(3)UNCTAD(国連貿易開発会議)統計では、2022 年末の、日本の名目 GDP に占める対内直接投資の比率は、5.4 %。UNCTAD 統計で数字が確認できる 198 か国中 195 位と、下から 3 番目です。

(4)例えば、名目 GDP に占める対内直接投資比率の OECD の平均は、約 50 % (日本の約 10 倍) です。イギリスは約 90 %。カナダは約 70 %。メキシコ、ブラジル、南アフリカ、オーストラリア、アメリカは 40 % 台。フランスは 35 %。サウジアラビア、ドイツ、イタリア、中国、インドネシア、アルゼンチン、トルコ、ロシア、韓国は 20 % 台。インドは、対内直接投資アップに向け、国を挙げて猛ダッシュ中です。



Q：日本への対内直接投資が停滞する原因は何ですか。

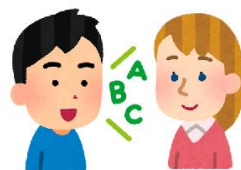
A：(1)JETRO から公開されている「2022 年度外資系企業ビジネス実態アンケート調査概要」によれば、「人材確保」が最も高い割合を示しているようです。

(2)「ビジネスレベルで外国語が使える人材の確保が困難」「技術系で、英語力をもった人材が非常に少ない」「地方都市での人材確保が難しい」。

(3)改善を期待する項目として、「外国語でのコミュニケーション」があるにもかかわらず、結局、「人材確保」でも言語問題が指摘されています。

「日本人の英語力の低さ」が、「対内直接投資」の不調、名目 GDP 比で、世界 198 か国中 195 位に直結していると思われます。

○以上、先月ご紹介した、唐鎌大輔著「弱い円の正体、仮面の黒字国日本」日経プレミアムシリーズ、日本経済新聞出版、2024 年 7 月 8 日刊を参照させていただきました。



**Q：小学・中学・高校・大学とずっと英語を学び続けているのに、なぜなのでしょう。**

A：(1)小学・中学・高校・大学で英語を学び、受験勉強で英語を学んでいるのに、なぜ、日本に企業活動や投資を希望する外国の方々から「人材としての評価」が得られないのか。

(2)日本で英語を学ぶ場合、最初の何年かはテキストを音読しますが、学年が上がれば上がるほど、「目で読むだけ」「問題を解くだけ」が大半。これが最大の原因と考えます。

(3)外国で英語を学ぶ場合には、「一度学んだ英語」は、どんなに高いレベルの英語を学ぶ場合でも、「スラスラよく読める」ようになるまで、「発音練習」「大切な英語は暗唱」「書き取り練習」を怠らない。「学んだ英語は、自分のことばでいえる（表現・説明できる）」ことを目指します。

(4)日本の英語学習者に極端に不足しているのは、「発音練習（暗唱）」と「書き取り練習」です。中学3年生、高校3年生、大学生で、学んだ英語を「発音練習（暗唱）」「書き取り練習」している姿を見ることは、極めてまれです。英語は語学ですから、たとえ受験勉強でも、一度理解した英語は、「発音練習・暗唱」「書き取り練習」を怠らないことが求められます。合格すればいいだけでは、「英語教育」として十分ではありません。

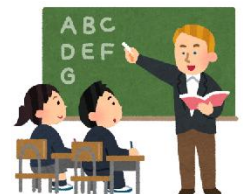


(5)学校や学習塾・予備校で、長年、英語を学んでも、「発音練習（暗唱）」「書き取り練習」に励まない限り、外国企業や外国資本の目には「大切な仕事を、一緒にするに足りる人材」となりえない。その結果、「日本への対内直接投資」は増えない。世界198か国中195位から、いつまでたっても、抜け出せない。そう思えてなりません。

**Q：学習塾、予備校、私立学校の経営幹部の先生方にお願いしたいことは何ですか。**

A：(1)すべての英語の授業の最後に、その日に指導した英語の「発音練習（暗唱）」「書き取り練習」を入れてください。

(2)英語の先生が、授業の一部に「発音練習（暗唱）」「書き取り練習」を、入れて、「宿題」として「発音練習（暗唱）」「書き取り練習」を課し、学習習慣にさせてください。



(3)国家予算は一円もかかりません。英語の先生が立ち上がるだけで、外国から日本への「対内直接投資」が激増、日本や地域経済の発展に貢献、人々の生活も豊かになります。

**Q：最後に一言どうぞ。**

A：(1)一冊目は、「発音練習（暗唱）」「書き取り練習」の重要性と、具体的方法満載の、黒田龍之介著「ロシア語だけの青春」ちくま文庫、筑摩書房、2023年6月10日刊です。英語の先生の「基本文献」「必読書」。



(2)二冊目は、国立社会保障・人口問題研究所国際関係部部長、是川夕著「ニッポンの移民—増え続ける外国人とどう向き合うか」ちくま新書、筑摩書房2025年10月10日刊です。在留外国人、移民問題の最新テキスト。わかりやすさ抜群、超おすすめです。

(3)三冊目は、2022年から駐カナダ大使、山野内勘二大使著「カナダ—資源・ハイテク・移民が拓く未来の『準超大国』」中公新書、中央公論新社、2024年12月25日刊です。合計特殊出生率1.3人で、現在の人口4100万人のカナダは、モザイク型の移民政策などを総動員

で、今世紀末には、人口 1 億人突破といわれています。駐カナダ大使の渾身のカナダから日本への提言がぎっしり。

- (4) 四冊目は、リクルートワークス研究所、古屋星斗著「働き手不足 1100 万人の衝撃」プレジデント社、2024 年 2 月 9 日刊です。15 年後の 2040 年、全産業で、超人手不足時代が現実化します。サービス産業は、その数年前。

○ではどうしたらよいか。

- ①「生産年齢人口」の「定義」を「15 歳から 64 歳を、85 歳」と、20 歳延長すること、
- ②外国人を、毎年、50 万人ずつ増やし続けること、と考えます（林案）。

- (5) 五冊目は、フランスの思想家、アンドレ・モロア著「フランス史（上）（下）」新潮文庫、新潮社、1957 年 5 月 30 日刊です。アンドレ・モロアには、「英国史（上）（下）」「アメリカ史（上）（下）」新潮文庫と、「ドイツ史」論創社、2013 年 10 月 10 日刊があり、いずれも読みごたえ満点の通史です。この 4 か国のテキストは、一行一行、味わい深く、知性にあふれ、興味が尽きません。

- (6) 六冊目は、世阿弥作・小西甚一編訳「風姿花伝・花鏡（かきょう）」タチバナ教養文庫、たちばな出版、2012 年 3 月 12 日刊です。日本人であれば、生涯にわたって、繰り返してじっくりお読みいただきたい、古典中の古典、「風姿花伝」の原文と小西先生の分かりやすさ抜群の現代語訳です（岩波文庫は原文）。一番のおすすめは、小西甚一編訳「世阿弥能楽論集」たちばな出版、2004 年 8 月 1 日刊です。「解説、人と芸術論」は、国語の先生は必読。

○学習塾、予備校、私立学校の先生に一番求められるのは、担当する教科の「深い理解（自分のことばで、教える内容をいえる・表現・説明できること）」と、世阿弥やシェイクスピアなど、日本や世界の「古典」に、生涯にわたり慣れ親しむことで培われる「知性・教養」と考えます。みんなで励まし合い、頑張りましょう！！

- (7) 七冊目は、河野龍太郎・唐鎌大輔著「世界経済の死角」幻冬舎新書、幻冬舎 2025 年 7 月 30 日刊です。丁寧に「著者との対話」をするようなつもりで、一語一語「理解」に励むと、2026 年に考えるべき論点が浮かび上がります。是非、ご一読ください。

— 2025 年 11 月 9 日記 —